第一回 落語

やぁ、やぁ、やった！ ついにコラムの連載始まりましたです。正直申しまして私、非常〜に嬉しく思ってます。やってみたかったんですよ、コラムの連載を。クラブフェイムをご愛読の皆様、新参者の私ですが、これから一生懸命がんばりますので、どうぞよろしくお願い致します〜。

……とはいうものの、始まってしまえばこっちのモノ。何を書こうが自分次第ですわな。フ、フ、フ……、よっしゃあ、連載中止になるまで思いっ切り好きなこと書いたるでぇ!!

さて、このコラムで何を書くかですが、タイトルはズバリ、一番星哲也の「いっぺん見てみぃ!?」です。何を「いっぺん見る」か、それは「私の好きなモノ」を、です……。という言い方をすればあまりにもゴーマンに聞こえるかもしれませんが、そんなことはありません。

つまり、私らの同年代であまり一般的に見聞きされていないモノで、実はとても面白かったりするモノってたくさんあるんじゃなかろうか、と思うわけです。ま、それらを私自身の趣味で選び、私個人の見解で、もう勝手に書いてしまえ!! というようなことですわな、簡単にいやあ。あ、結構コーマンかな？

それでは記念すべき第一回目のお題目は、「落語」です。でました、さっそく。まぁコレにした理由は単純に、私が落語を大変好きだからなのですが、何を隠そうこの一番星哲也、まだ本名の「西野哲也」という、昔の名前で出ていた頃、一度本物の「寄席」に出演したことがあるのです。

キッカケは、知り合いの桂出丸さんという落語家さんが「出ないか」と冗談で言ったのを真にうけて、本当に出てしまったというわけなのですが、このときまさか本物の「時うどん」や「高津の富」のような噺をしたのではないです。いってみれば「ギター漫談」ですね（月亭可朝か、俺は！）。変な歌の合間にちょいとばかり粋なおしゃべりをしつつ、小咄を少々、くらいのもんだったんですが、コ、レ、が、ま、た、緊張したのなんの、普段のLIVEの700倍くらい緊張したものです。一応ちゃんとした羽織袴（ピンク色）を着て高座に上がったんですが、まぁしかし、えぇ経験したなぁ、と思います。

私が落語を好きな大きな理由は、あれが、まさに「芸」だからです。あんなこと普通できませんで、気色悪うて。だってそうでしょう、右向いて左向いて、一人で何人もの役やって、分かり切ってることに驚いて……。キョーレツですね。たぶん「俳優以上、気○がい未満」でしょうね。それでいて、人を笑わせる。人を納得させる。だからこそスゴイんですよ。「芸」なんですよ。

ま、そんな「芸」の魅力もさることながら、単純にやっぱり面白い！ 確かに「落語」よりも「漫才」の方がよっぽど日常的で笑いの量は多いかもしれませんが、落語の数々の噺には今ある笑いのパターンが全て含まれているんじゃないかと思うわけです。まさに落語は「笑いのルーツ」です。そう、あらゆるジャンルの音楽のルーツが「ブルース」であるように。

それでは私が個人的におすすめする落語家さんを紹介したいと思います。

まずは「桂南光」さん。テレビ等でも随分と有名な方ですが、南光さんは「とてもキレイに落語をなさるなぁ」と思います。あと、あの笑顔といい、あの話し方といい、イメージ的に「落語家さんらしい人だ」という印象が、私には昔からあります。

二人目は「桂雀々」さん。雀々さんの何が好きといって、これは決して悪い意味ではなく全て良い意味でですが、「舞台に出てくるだけでついつい笑ってしまう」ところですね。「顔」が影響しているのかどうかは、まさか言えませんが、舞台に出てくるだけで「ニヤリ」とさせてしまうのは、とても素敵なことだとは思いませんか？ 我々のように音楽をやる人間にとっても、ニュアンスは違いますが、お客さんをつかむという点で、そうありたいと思いますね。

三人目は「桂都丸」さん。都丸さんをおすすめするのは、決して私が以前KBS京都ラジオで「桂都丸のサークルタウン」という番組のADをしていたから、ではありません。都丸さんの落語は、師匠の「ざこば」さんの流れをうけてかどうかは分かりませんが、とても「豪快・豪傑」です。それでいて「若者の心をもくすぐる話し方を繊細にする落語家さんだなぁ」と思うからです。

何か評論家めいたことを生意気に書いてしまいましたが、あとはやっぱり「生」で見るのが一番いいですね。「LIVE」ですよ。このことはきっとこのコラムの連載を通してずっと言い続けることだと思いますが、何事もやっぱり「生」が一番エエで「生」が!! あ、勘違いせんといて下さいね。

落語の原形となるものの発祥の地は「京都」だそうですが、笑いに敏感な関西人として、やっぱり生で落語を"いっぺん見てみぃ!?"

【題字・イラスト】アキレスKEN

ICHIBANBOSHI TETSUYA

【プロフィール】
京都市生まれ。本業はミュージシャン。
'90年、市内のゲームセンターで知りあった仲間と「NOISE FACTORY」を結成。
'94年12月「ホタル・パワー」でキューン・ソニー・レコードよりメジャーデヴュー。
今年秋には、2ndシングル、2ndアルバムを発売予定。